

科目名	日本文学と日本語B	科目コード	1131	単位数	3
担当者名	保坂 智	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	実務経験	無		

● 授業のねらい

さまざまな文体・ジャンルの表現を題材として、日本語の文章表現についての理解を図り、教養を高める。文字と文体について学び、どのようにして日本語散文表現が成立したかを理解するとともに、実際に書くことを通して体験的に学習していく。

● 到達目標

- ・さまざまな文体・ジャンルの日本語表現の成立過程と特色を知識として身につける。
- ・自分の考えを適切に記述することができる。
- ・言語と他のメディアの表現との差異を認識し、それぞれの特性を活かした表現ができる。

● 授業内容

- 1週目 ガイダンス
- 2週目【実践編1】作文：私について（作業・評価・添削）
- 3週目【講義編1】文字史（漢字）
- 4週目【講義編2】文字史（仮名）
- 5週目【講義編3】オノマトペ + 第1回試験
- 6週目【実践編2】作文：最初の記憶（作業・評価・添削）
- 7週目【講義編4】文体史（和化漢文）
- 8週目【講義編5】文体史（漢文訓読体）
- 9週目【実践編3】作文：コップの水（作業・評価・添削）
- 10週目【講義編6】文体史（和文）
- 11週目【実践編4】メディア間の翻訳 言語と音楽（作業・評価・添削）
- 12週目【講義編7】文体史（和漢混交文）
- 13週目【実践編5】メディア間の翻訳 言語と漫画（作業・評価・添削）
- 14週目【実践編6】メディア間の翻訳 言語と映画（作業・評価・添削）
- 15週目 まとめ + 第2回試験
- 16週目 課題に対するフィードバックを実施。但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講を行う。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- （予習）講義プリントや扱う文章をGoogleClassroomに公開するので、あらかじめ確認してから講義に臨む。（90分程度）
- （復習）講義後は、配布された参考資料やプリントを復習し、理解に努める。また【実践編】の後では、学生相互の批評を行なってもらう。（90分程度）

● 成績評価の方法・基準

試験を2回、作文提出を6回課す。試験40%、提出課題や講義へのコミットメントは60%として評価する。なお、5回欠席した場合は評価の対象としない。

● 履修上の留意点

文章を実際に書いてもらう【実践編】と日本語による散文表現の成立を考察する【講義編】とからなる。【実践編】の提出物も評価対象とする。また、書いたものは、学生同士でも読み合うものとする。

● 課題に対するフィードバックの方法

提出物は、その都度コメントをつけてフィードバックを行う。

● テキスト

特になし

● 参考書

- ・山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）842円
 - ・金文京『漢文と東アジア』（岩波新書）864円
- なお、必要に応じて適宜GoogleClassroom上で紹介する。

● 更新日付

2022/03/01 02:12